

特集

伊万里を元気に!!

— 私たちのまちづくり —



平成 28 年 9 月 17 日に大川内山で開催されたまちづくりイベント『地酒小路』の様子



私が取材を
担当しました

市民リポーター紹介

松本 すみえ さん

◆プロフィール

伊万里市民まちづくり推進会議委員。
地元では、『楠久津こども太鼓』の代表をしています。少子化により伝統が途絶えようとしていたこども太鼓を復活。よさこいも取り入れ、地元の祭りなどで披露しています。各地のまちづくり活動に興味があります。

少子・高齢化社会を迎え、人口の減少が問題となっている日本。特に地方では、都市部への人口流出が進み、このままでは地域のコミュニティを維持できなくなるかもしれない。また、ライフスタイルの多様化とともに、住民のニーズも多様化。行政だけではなく新たなまちづくりの担い手が必要になっていきます。

このような中、市内には多くの市民活動団体があり、さまざまな視点でまちづくりに取り組んでいます。今回の特集では、伊万里市民まちづくり推進会議委員の松本すみえさんが、市内の2つの団体が行っているまちづくりの活動をリポートします。

自分たちのまちをより良くするヒントがあるかもしれない。自分にできることは何か、皆さんも一緒に考えてみましょう。

● 問合先

まちづくり課まちづくり推進係 (☎2114)



魅力あるまちをつくり
そこに人を呼び込む

人口が減ると、経済活動が低下したり、地域コミュニティの維持が困難になったりするなど、さまざまな問題が起きます。そうならないようにするためには、どうすればいいのでしょうか。そのヒントを探るための一つの取材先に選んだのは、若者ならではの視点と自由な発想力で、魅力あるイベントを次々に企画し、交流人口（左図参照）の拡大を図っている団体です。

『定住人口』と『交流人口』

定住人口とは、その地域に住んでいる人のこと。一般的に『人口』というと、定住人口のことをいいます。一方、**交流人口**とは、その地域を訪れる人、観光客などのことをいいます。全国的に人口減少が進む中で定住人口を増やすことは簡単ではありません。このため、交流人口を増やすことで地域の活性化につなげることが、重要になっています。

若者の視点でさまざまなイベントを企画

GOLD U-35 (ゴールド アンダー35)



代表 森永一紀さん

長崎県松浦市出身。市内のバーの店長、カフェのオーナー。人とのつながりがきっかけで、まちおこしグループ『GOLD U-35』を立ち上げる。活動のモットーは「わくわくを伝える」。



↑まちづくりに対する森永さん(右)の熱い想いを感じました



↑サンタクロースからプレゼントをもらい、子どもたちは大喜び



↑4枚つづりのチケットを買って参加店を食べ歩く回遊型の飲食イベント『伊万里GYUGYUバル』



↑筋肉隆々のメンバーが掛け声とともにかき氷を削る『筋肉かき氷』

■ 結成のきっかけ

◇松本 結成のきっかけは何ですか。

◆森永 店長として働くバーにお客さんとして来ていた、吉武広樹さん(※)との出会いがきっかけです。パリや東京など世界を舞台に活躍する吉武さんに刺激を受け、「この伊万里で自分たちも何か熱いことができるはず」という思いが強くなり、仲間を声をかけて始めました。

■ 活動内容

◇松本 どんな活動をしているんですか。

◆森永 伊万里にぎわいマルシェに出店したことが始まりの『筋肉かき氷』や、『伊万里GYUGYUバル』への参加、サンタクロースの格好をして子どもたちにプレゼントを配るイベントなど、地域を盛り上げるためのさまざまな活動をしています。去年の9月に開催した、『地酒小路』は、大川内山に人を呼び込み、知ってもらうためのイベントです。今年7月の大川内山ポシ灯ろうまつりに併せての開催を予定しています。

◇松本 私の住む地区の祭りにも、『筋肉かき氷』が来て

■ 活動の中で変わる意識

◆森永 私自身もさまざまな活動を通して、伊万里の魅力に改めて気付きました。すばらしい歴史や伝統があり、熱い人もたくさんいる。意識が変わると見えてくるものも違うんです。一人一人の意識を変えることが、まちおこしにつながっていくと思っています。

■ 今後の展開

◇松本 今後はどのようなことをやりたいですか。

◆森永 これまでの活動で、同世代の横のつながりはかなり広がりました。カフェを開いたきっかけでもありますが、今後は縦のつながり、もっと幅広い世代が集えたり参加できるようにするための作りたいですね。また、市や県の枠にとらわれず、色々な地域を巻き込んで、面白いことをやっていきたいと思っています。

(※) 吉武広樹さん：山代町出身。国内最大級の料理コンペティションでグランプリを獲得した料理人。市観光大使も務める。



『区』の活動から 広がる取り組み

GOLD U・35の取材を通して、まちづくりには自分の住む地域を見つめ直し、魅力を再確認していくことが大切だと学びました。その地域に住むことに誇りと愛着を持つことが原動力になるのです。

二つ目の取材先に選んだのは、伊万里の市街地からは離れた地域で取り組んでいる団体です。自分たちの住む地区のために始まった取り組みから、さらに広がりを見せ始めています。

町・地区ごとに違う『人口減少率』

市の平成22年と平成27年の人口を比較した人口減少率は-2.7%（各年10月1日現在）。町・地区によっても差があります。

【町・地区別人口減少率】伊万里地区-5.1%、牧島地区-4.4%、大坪地区+1.6%、立花地区+9.3%、大川内町-8.1%、黒川町-0.9%、波多津町-8.9%、南波多町-9.6%、大川町-9.8%、松浦町-5.6%、二里町-1.0%、東山代町-3.7%、山代町-8.7%



↑和やかな雰囲気の中で練習が行われていました

地元の伝統をつくり、広げ、つないでいく

ほうぎょう 板木法行太鼓保存会

代表 前田 和宏 さん

地区の人口が減っていくなか、太鼓の練習を通じて、世代を超えたつながりをつくることで地域を活性化しようと平成25年12月に会を発足。現在は12人のメンバーで活動を行っている。



↑波多津東小学校『ふれあいフェスタ』



↑法行城例大祭での『法行太鼓』



↑波多津町みなと祭り

■ 結成のきっかけ

◆松本 結成のきっかけは何ですか。

◆前田 地区に元々太鼓の伝統があった訳ではありませんが、板木にはかつて法行城という城がありました。その城主の末孫にあたる、坂本勇二郎さん（大阪府豊中市）から、区に法行太鼓4基の寄贈を受けました。区の役員会で活用方法を検討するなかで、太鼓を通じて地域のつながりが一層強くなればと思いついたのがきっかけです。

◆松本 しつかりと区のために活用するということがすばらしいですね。

■ 活動内容

◆松本 どんな活動をしているんですか。

◆前田 小学生から40代までの12人で、毎週2回集まって練習をしています。法行城跡で毎年8月に行われる例大祭が主な披露の場ですが、今では波多津町みなと祭りや町外のさまざまなお祭りで、年間10回ほど演奏しています。

■ 課題

◆松本 私も、子ども太鼓の代表をしています。子ども

もが減り、保護者など大人の理解を得る大変さも感じます。また、取り組みを次世代につなげていくことが一番の課題だと思っていますが、どうですか。

◆前田 確かに人集めや、周りの理解を得ることに對しては苦労しました。続ける難しさも感じています。しかし、今子どもたちは楽しんでやってくれていますし、大人になっても忘れないと思うんです。地元に残る、地元に戻ってくるきっかけの一つに太鼓がなればという思いです。

■ 今後の展開

◆松本 今後はどのようなことをやりたいですか。

◆前田 地区内外のイベントに積極的に参加したいと思っています。「周辺がある」から中心がある」という思いで、波多津町のような周辺地域から伊万里を盛り上げたい。市街地でのイベントなどで、各町の芸能などを披露するような場を作ってもらいたいですね。

◆松本 いいアイデアだと思います。市街地に人が集まるし、各町のPRにもなり、相乗効果がありますね。



私たちの手で 私たちのまちをつくる

二つの団体の取り組みから感じたことは、「自分たちの住むまちは、自分たちの手で活性化しなければならぬ」という強い思い。その思いがあれば、あなたにもできることがきつとあるはずですよ。

例えば、市内各地で開催されているイベントや地域の行事に参加することも、立派なまちづくり。参加者あつてのイベントです。市内に住む私たちが参加して盛り上げていくことは、大きな力になります。そして、参加していくなかで、自分たちの住む地域の魅力を再認識するとともに、抱える問題点や、足りないものに気付くことができるかもしれません。まちづくりの担い手は、私たち一人一人なのです。



↑波多津ウォーク（今年は3月26日（日）に開催予定）

— サポートします あなたの『まちづくり』 —



←伊万里子育て支援ネットワーク育ピースが発行した子育て情報誌『子+imari』（21世紀市民ゆめづくり計画支援事業）



→伊万里地区まちづくり運営協議会が実施した名所・旧跡などを巡る『伊万里地区ウォーキング大会』（地域の元気推進事業）

市では、さまざまな支援メニューで皆さんのまちづくり活動を応援しています。各町・地区の公民館を中心に取り組まれている『地域の元気推進事業』、各団体などのまちづくり活動に対する『21世紀市民ゆめづくり計画支援事業』、人口減少地域を元気にする『さが未来スイッチ交付金事業』のほか、国の交付金などを活用できる場合があります。地域や各種団体、個人がそれぞれに合った支援制度を活用できますので、気軽に相談してください。人や地域の熱い思いをどれだけ汲みとって考えられるか、皆さんの役に立てるよう心がけています。まちづくりの第一歩は、まず、自分の住む町を好きになることではないかと思えます。皆さんの住む伊万里には、すてきな人がたくさんいて、すてきな風景がたくさんあるはずですよ。さあ、その一歩を踏み出してみませんか。



まちづくり課
まちづくり推進係
係長 末吉 建作

— リポートを終えて —

今回、市民リポーターとして伊万里のために、また、まちおこしのために活動されている二つの団体のすばらしい活動内容を知ることができました。どちらの団体も、始まりは「伊万里のまちをにぎわいのあるまちにしたい」、「自分たちの住む地区を活性化したい」という同じ志を持つ人が一つに集まったことです。そして、それぞれの活動を通して「伊万里に住む人たちに

すです。そして私たちも、伊万里の人が発信している情報に耳を傾け、自分からそこに集まっていくことが大切なのではないでしょうか。

もつと伊万里を知ってもらいたい」という思いで一生懸命活動されていきました。

伊万里をもう一度見つめ直さず、市外ばかりをうらやましながら、さまざまな活動に参加して自分の地区でできることを周りの人と行動して伊万里をすばらしいまちにしていきたいと思えます。

私自身、友達と「伊万里は何もないね」、「伊万里はどうなるんだろう」と話をしていました。しかし、何もないのではなく、ただ私たちが知らないだけなのだ、反省しました。

「二人の手」という私の好きな歌があります。その歌詞に、「二人の小さな手、何もできないけど、それでもみんなの手と手をあわせれば何ができる、一人の小さな声、何も言えないけど、それでもみんなの声が集まれば何か言える」という部分があります。伊万里に住む私たちには、このことが大切なのではないかと思えました。

今回取材した二つの団体は、それぞれが『年代を超えた集まりの場所』を目標に頑張っているような気がしました。さまざまな世代が集い、交流を深めていくことで、その思いを自然と次の世代へとつなげていくことができるは



市民リポーター
松本 すみえ さん